

1 事業名

平成26年度 日独学生青年リーダー交流事業(文部科学省委託事業)

2 趣旨(事業の目的)

参加者の資質向上と日独二国間の人的交流の深化, 具体的には相手国の青少年育成活動の枠組みや現状を学び, 実際の現場での活動や若者同士の交流を通して, 派遣団員が自分たちの活動を新たな視点から見つめなおし, 新しいアイデアを得て, それを自身の活動に活かすことを目指している。

岩手山青少年交流の家では, 東日本大震災の被災地を訪問し, 現地で活動する青年リーダーとの交流の場を設定した。

3 期日

受入れ期間:平成26年8月26日(火)~9月1日(月) (7日間)

(全体受け入れ期間:平成26年8月20日(水)~平成26年9月2日(火) (14日間))

4 参加者

18歳~26歳で, 青少年育成の分野でボランティア活動を行っているドイツ人16名
ドイツ団長1名

被災地で活動する青年リーダー6名(大学生3名, 29歳以下の社会人3名)

(釜石市…大学生1名, 社会人1名 山田町… 大学生2名, 大槌町…社会人2名)

5 連携・協力

岩手県立陸中海岸青少年の家 公益財団法人 岩手県国際交流協会
一般社団法人 SAVE IWATE ボランティア番屋 NPO法人 吉里吉里国
一般社団法人 さんりくひとつなぎ自然学校 一般社団法人 おらが大槌夢広場
日本ボーイスカウト岩手連盟 理事長 末永正志氏 宝来館 岩崎昭子氏
照井則子氏(ドイツ語通訳 釜石グループ) 熊谷彬衣氏(ドイツ語通訳 大槌グループ)
安渡虎舞13名 ホストファミリー16 家族 岩手県立大学さんさ踊り実行委員会

6 内容

(1) 日程

	6:30	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00	23:00
8/26 (火)	東京から移動 → 陸中海岸青少年交流の家へ														陸中着	施設案内	ミーティング	宿泊 (陸中)
8/27 (水)	起床 身支度等	朝食	開会式	グループ 顔合わせ	移動	東日本大震災被災地域視察 青年ボランティア活動等の紹介					移動 陸中着	夕食	交流会	ミーティング	宿泊 (陸中)			
8/28 (木)	起床 身支度等	朝食	日本の青年リーダーとの 意見交流・もちつき体験			昼食	陸中 発	岩手山青少年交流の家へ移動		夕食	岩手山 着	施設案内	ミーティング	宿泊 (岩手山)				
8/29 (金)	起床 身支度等	朝食	忍び駒づくり	ミーティング	昼食	滝沢市役所 表敬訪問	ホームステイ 準備	ホストファミリー 対面式		ホームステイプログラム								
8/30 (土)	ホームステイプログラム																	
8/31 (日)	ホームステイプログラム								ホストファミリー 交流会	ミーティング	夕食	自由行動・評価会準備			宿泊 (岩手山)			
9/1 (月)	起床 身支度等	朝食	評価会 準備	評価会	昼食	岩手山青少年交流の家を出発 → 大阪へ												

(2) 指導者

餅つき体験	岩手県立陸中海岸青少年の家	研修班長	中村 可起 氏
忍び駒	国立岩手山青少年交流の家	創作活動指導員	階 幸男 氏
国立岩手山青少年交流の家	副主任企画指導専門職		佐々木 克子
国立岩手山青少年交流の家	企画指導専門職		高橋 省一
国立岩手山青少年交流の家	事業推進係		寺山 貴大
国立岩手山青少年交流の家	事業推進係		中野 健二

(3) 企画のポイント

本事業では、特に「被災地3地区の青年リーダーと交流する場の設定」、「岩手の特色ある文化体験を通しての日本文化の理解」にポイントを置き、東日本大震災で大きな被害を受けた岩手県沿岸の釜石市、山田町、大槌町での活動を企画した。ドイツ団に震災後3年を経た傷の癒えていない現地の様子を見学してもらい、地域社会に働きかけている青年リーダーの活動について関心を持ってもらいたいと考えた。そして、日独の青年が互いに違った立場で、若者の社会参画の意義や姿勢について考えを深める機会とすることをねらった。

岩手山青少年交流の家の文化的創作活動プログラム「忍び駒」を実施する際に、当施設に移築された旧南部領の特徴的な古民家「南部曲家」で行った。工芸品「忍び駒」の由来について触れることで日本文化の理解につなげるようにした。さらに、今年、和太鼓演奏者最多のギネス世界記録を達成した「盛岡さんさ踊り」をホストファミリーと一緒に踊ることで、一層の日本文化理解と交流を図った。

(4) 広報のポイント

本事業では、ホストファミリーの募集を行った。本施設では、初めてのホストファミリーの募集であったため、ホストファミリー募集のチラシを作成した。「体験の風をおこそう」運動の推進のためガチャピンムックの画像を使うことで、興味関心を高めてもらうことをねらった。チラシは、近隣10か所の図書館等の社会教育施設の窓口に配置したり、国際交流に力を入れている4つの高等学校に配布したりした。さらに、公益社団法人岩手県国際交流協会の協力を受け、初年度ながら21家族の応募があった。また、岩手県内のテレビ局及び新聞社に取材を依頼をした。

(5) 運営のポイント

被災地で活動する3グループの中に岩手山職員1名、ドイツ語通訳1名を入れて、7~8名の少人数のグループにすることで、運営上の安全管理とグループの様子把握に努めた。3つのグループで活動することにより、3つの地区での活動の様子をドイツ団で共有することができるようにした。

時には、時間を設定していなくとも、ドイツ団長と岩手山職員及び本部随員が、随行するドイツ語通訳を交えて、次の活動に向けて理解促進を図るために、ミーティングの時間を持つようにした。このことで、職員とドイツ団長との共通理解を深めながら、プログラムを進めてい

くことができたため、ドイツ団長とより深い信頼関係を築けたといえる。

7 成果とその普及

「被災地3地区の青年リーダーと交流する場の設定」という点について、ドイツ団はアンケートの中で被災した地域を訪問し、実際に自分の目で現地を見られたことが大変貴重な体験であったと評価している。被災地で活動している青年リーダーの社会貢献活動は、素晴らしい活動であり、復興のボランティア活動を共同で作業したことで、個人的なつながりが生まれ、グループ内の関係は、温かいものとなり、とても満足しているという回答があった。

本事業の成果の1つは、ドイツ団と日本人リーダーの交流が深まり、ドイツ団から日本人リーダーへあたたかい励ましの言葉をもらったことである。体験活動を共有し、日本人リーダーの実状を理解した上での意見交流は、地域社会に働きかけを行っている日本人リーダーにとって大きな励ましになったと思われる。

意見交換については、おおむね満足という結果である。「個人的な交流が深まり、とてもよい雰囲気であった。」という意見もあったが、「関わりを深めるには時間が短すぎた。」という意見もあった。

「岩手の特色ある文化体験を通しての日本文化の理解」という点においては、岩手山青少年交流の家で行われた「忍び駒づくり」は、満足度100%である。古民家での体験ということもあり、「自分で作り、文化を肌で感じる良い体験であった。」という評価が得られた。「さんさ踊り」を参加者全員で踊るという活動をホストファミリー交流会の中で行ったことも高評価につながった。

ホストファミリーとの交流についても、おおむね好評価であった。「とても歓迎を受けている感じがした。」という意見もあった。一方ホストファミリーとの意思疎通が難しかった家族もあり、ホストファミリーによって、対応にばらつきがあったようだ。しかし、うまく意思疎通ができていなくても、ドイツ人のために頑張るホストファミリーの気持ちについては十分ドイツ人側に伝わっていた。

被災地のボランティア活動について新聞報道1社、テレビ取材1社、忍び駒作りについて新聞報道1社、滝沢市表敬訪問に新聞報道1社、テレビ取材1社あった。企画の概要・報告書等は、ホームページへの掲載や館内への写真掲示による紹介をとおして、幅広く普及活動を行った。

8 今後の課題

今年度は、東京から陸中海岸青少年の家への移動や陸中海岸青少年の家から岩手山青少年交流の家への移動に時間を費やすことになり、移動するバスの中で歌を歌ったりして交流を深めたり、団ミーティングをしたりして時間を有効に活用することはできた。しかし、テーマについての意見交流時間の不足は否めない。

また、被災地で活動する青年リーダーを探すことも大変困難を極めた。被災地に残って活動している青年は非常に少ない。8月下旬ということで高校生は新学期が始まったばかりで、交

流をお願いすることは難しかった。ドイツ団と効果的な交流ができるように、多方面に連絡をとって参加する日本人リーダーの選定を行う必要がある。

ホストファミリーの募集については、スムーズに進めることができたが、集まったホストファミリーの選定については資料を一読しただけでは把握しきれない事象があった。丁寧に資料を確認し、語学力や家族構成、ドイツ人側に伝えておいた方が良いホストファミリーの情報についても取捨選択して、伝えておく必要がある。

ドイツ団の情報についても、実態と異なる報告があるので、特に食物アレルギーについては、情報の詳細な把握に努めたい。意見交流会に直結するドイツ団のボランティア情報等もあらかじめ日本人リーダーに伝える手段も考えておく必要がある。交流する日本人リーダーとも意見交流会前にそれぞれのボランティア活動など情報を提供しておき、意見交流の時間は、テーマにしぼった方向で深くディスカッションしていけるように意見交流会の持ち方について工夫していきたい。



被災地でのボランティア活動(山田)



協力し合って忍び駒作り



さんさ踊りを楽しんだドイツ団